

1 目標

「グローバルMICE戦略都市として、京都の強みを生かした京都にふさわしいMICEの誘致を図り、日本のMICEをけん引する「世界があこがれる観光MICE都市」への更なる飛躍」

京都は、ものづくり(物質文化)・ものがたりづくり(精神文化)が相互に刺激を与え、高め合い、感性・匠の技・ところを継承し、それらの融合・深化によるまちづくりを、千年を超えて続けてきました。

世界の平和・人類の未来を考え、議論するために京都に集う。京都は、日本を代表するコンベンション都市としてその役割を担ってきました。

加えて、平成32年(2020年)のオリンピック・パラリンピックの東京開催に向けて、今後更に日本への注目が高まり、世界中からの多くの方が日本に訪れることが予想される中で、京都が果たさなければならない役割はますます大きくなっていきます。

京都ならではの魅力を最大限に活用し、多様な価値観を共有する場を提供することで「世界があこがれる観光MICE都市」へと更なる飛躍をすることを目標に掲げます。

コンベンション開催件数の世界順位

2020年(平成32年)までに世界35位を目指す。
(ICCA統計基準)

現状 世界55位(43件)(平成25年)

資料：公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー
「2013京都で開催の国際会議」

外国人参加者比率の国内主要都市※順位

1位の堅持(JNTO統計基準)

現状 国内1位(16.5%)(平成25年)

資料：JNTO「2009～2013国際会議統計」

※平成26年(2014年)現在のグローバルMICE戦略都市及び強化都市の7都市をいう。

2 施策

施策①

開催支援メニューの充実、産学公連携の強化、宿泊・飲食・会場施設等をコーディネートする組織やワンストップ窓口を開設するなど、主催者が京都を選択しやすい環境を整える

MICEの誘致には、主催者の手間と不安を取り除く仕組みを構築することが肝要です。関係者間の連携を深め、主催者・事業者双方がメリットを受ける環境を整備し、京都ならではのおもてなしを提供することにより、競争力の強化を図っていきます。

推進事業 10事業

★：推進事業のうち特に重要で優先度が高い重点事業

★ ワンストップ窓口の設置をはじめとする、MICEの誘致、開催支援メニューの充実

主催者が京都を選択するための後押しとして、開催に係る主催者の負担軽減のためのワンストップ窓口の設置や会議参加者への配布物の充実、また、誘致・開催等に要する費用負担への支援等を充実させる。

★ 京都市MICE協議会(仮称)の立上げ

京都市内のMICEビジネスに関わる事業者、学術関係者、行政機関等の関係者を集めた協議会(京都市MICE協議会(仮称))を立ち上げ、産学公との連携の下、課題や情報の共有体制の強化を図りMICE誘致の推進を図る。

★ 大学との連携強化とMICE開催支援

国際的な学会等を開催するためのノウハウや情報提供などを行い、大学教授、研究者などに対するきめ細かな支援を行うことで、潜在的な主催者の掘り起こしや情報交換を通じた更なるMICE開催を推進する。

★ 国立京都国際会館の拡充整備に向けた取組の推進

国の平成26年度予算において、2500人規模の多目的ホールが整備(平成30年度竣工)されることとなったが、昨今の国際会議の大型化・多様化に対応可能な5000人規模への更なる拡充の早期実現に向けて取り組む。

▷ MICE分野における海外他都市との連携強化

MICEに関する国際的な都市間連盟(アライアンス)に加盟するなど、情報収集能力を向上させることで、更なるMICE誘致を図る。

▷ 会議終了後の観光プログラムの充実

▷ 伝統産業製品など京都らしい「記念品」の購入機会の創出や購入に対する支援

▷ みやこめっせ、ロームシアター、国際交流会館など岡崎地域施設の一括活用と、美術館、庭園など多彩な集積資源をいかしたユニークベニュー※活用化の推進

※ユニークベニュー 本来の用途とは異なる利用を可能にすることでMICEのイベント・レセプション会場として機能する施設のことを指す。

▷ 世界的な知名度のあるホテルの誘致、旅館等の活用による受入体制強化

▷ 大阪・神戸・奈良等他都市との連携強化によるMICE受入体制の充実

施策②

京都にふさわしいMICE誘致の強化を図る。とりわけ、ミーティング・報奨旅行対策の強化などMICEによる経済効果を最大限にする

京都の多様な魅力を、MICE誘致に活用し、参加者の満足度を高めることは、もう一度京都に来てみたい、また、京都の良さを他の方に伝えたいという意向を高めることにつながります。中でもミーティングや報奨旅行の分野の市場は年々拡大していると言われています。こういったミーティングや報奨旅行は企業が主体である場合が多く、経済波及効果も高く見込めるとして特に注目を集めています。また、企業だけでなく新たな需要の掘り起こしとして、アルムナイ※層などへの働き掛けも進めています。

京都の魅力を最大限活用し、また、京都商工会議所等との連携による情報収集なども行いながら、MICE誘致と京都での継続的な開催を促し、経済効果の向上を図っていきます。

推進事業 9事業

★：推進事業のうち特に重要で優先度が高い重点事業

★ 世界的な見本市・商談会等での情報発信や旅行事業者等による現地視察会（ファムトリップ）の実施と、MICE誘致機能を有する海外拠点の設置検討

海外での積極的な情報発信の実施等に加えて、MICE部門に特化した海外情報拠点の設置に向けた研究を行う。

★ M・I 専門官（仮称）の設置

ミーティング、インセンティブツアーを専門とした豊富な情報と業界ネットワークを有する人材をM・I専門官（仮称）として設置し、都市間競争力を高めていく。

★ 多国籍企業等からの情報収集とM・I誘致の強化

多国籍企業などからのM・Iの実施に関する情報収集と、京都での開催メリットの提案による、M・Iの重点的な誘致を進める。

▷ 京都ならではのユニークベニユーの開発

▷ MICE誘致用のホームページの充実

▷ 主催者、参加者の満足度や評価の把握及びそれに基づいた京都MICEの品質の向上

▷ 旅館、飲食店など新たなMICE開催施設の発掘

▷ 京都での同窓会開催、ウェディングや2度目の修学旅行等の誘致などMICEに準じたミーティングの誘致

▷ アルムナイ※層誘致の推進

※アルムナイ（Alumni）大学の卒業生組織、企業の退職者やOB・OG組織などのことを指す。

施策③

環境・科学・文化・歴史など世界の平和や人類の未来に貢献する国際会議の誘致を図る

京都では地球温暖化防止京都会議(COP3)、世界水フォーラムや世界歴史都市会議など、国際的に知名度が高く、後の歴史にその名を残す会議が行われてきた実績があります。物質文化と精神文化の両者が相互に刺激を与え、高め合い、融合・深化によるまちづくりを、千年を超えて続けてきた京都こそ、合意や調和を必要とする会議の開催には最もふさわしい場所です。こうした実績を基に、G8サミット関係閣僚会合誘致など、京都の都市格の向上につながる世界平和や人類の未来に貢献する国際会議の誘致を進めていきます。

推進事業 4事業

★: 推進事業のうち特に重要で優先度が高い重点事業

★ 環境・科学・文化・歴史などの国際会議を重点対象とした支援メニューの充実、トップセールスを含めた誘致活動の強化

京都の都市格を向上させると特に認められる国際会議等への重点支援の仕組みやトップセールスによる誘致活動の強化を進める。

▷ STSフォーラム※等の開催に係るレセプション実施などの地元支援

※STSフォーラム 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム (Science and Technology in Society forum)

▷ 「DO YOU KYOTO?」を合言葉に京都議定書誕生の地・環境先進都市・京都の魅力を発信

▷ MICE開催を通じたカーボンオフセット※の推進

※カーボンオフセット 日常生活や経済活動において避けることができない二酸化炭素等の温室効果ガスの排出について、排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても削減できない温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせするという考え方

施策④

MICEの開催を通じて都市の活力を向上させる

MICEを開催することにより、様々な交流が生まれます。その交流は、MICE参加者同士のみならず、参加者と市民の交流、また市民が最先端の技術・情報に触れる機会にもつながります。

こうしたことが、市民が誇りを持てるまちづくりにつながるとともに、新たなビジネスのきっかけを生み、事業活動の活性化、雇用の創出など都市の活力が向上することが期待されます。

推進事業 4事業

★：推進事業のうち特に重要で優先度が高い重点事業

★ 地元コンベンション事業者の振興

国際会議等の開催には、関連する宿泊、飲食、輸送などのコンベンション関連事業の需要を生むことから、地元企業の参入機会を拡大させ、地域経済の活性化、新たな雇用の創出を図る。

★ 市民向け講座やシンポジウムを開催するなど市民参加型のMICE開催の推進やMICEサポーター制度の創設、市民団体との連携強化

国際会議と合わせて実施する市民向けプログラムなどの開催による市民参加型のMICEの推進や、学生・留学生などによる運営ボランティアを活用することにより京都のMICEの将来を担う人材の育成を行う。

▷ ものづくり都市としての活力向上

MICE開催に当たり、京都の伝統産業製品の活用・購入の促進や、新産業の技術紹介を行うことにより、伝統産業をはじめとする京都ならではのものづくりの振興を推進する。

▷ 文化都市としての活力向上

MICE開催に当たり、京都らしい文化プログラム活用の促進や文化体験メニューの紹介などを通じて、花街をはじめとした伝統文化の振興を推進する。

1 進ちよく管理

- (1) 京都市観光振興審議会委員から選出された者等で構成する「京都観光振興計画2020マネジメント会議(仮称)」により、計画の進ちよく管理を行うとともに、取組効果の把握、分析を行います。

開催件数、参加者数、平均宿泊日数、経済効果や雇用創出効果等を指標とし、今後数値目標を設定していきます。

- (2) PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)を活用し、進ちよく管理を徹底し、重要事業については、事業の進ちよく度に応じて、新たな改善策の立案、実施を徹底します。
- (3) 実施事業については、今後2～3年で取り組む短期事業と平成32年(2020年)を見据えて取り組む中期事業に分け、実施主体、実施手法を明確にしたうえで推進していきます。

2 計画推進体制

京都市のMICE戦略を担う観光MICE推進室と公益財団法人京都文化交流コンベンションビューローが中心となって、京都を愛する皆様と一丸となって、計画を推進するとともにMICE振興に関わる関連団体間の連携体制の強化、情報収集・共有の徹底を図ります。

3 その他

- (1) MICE振興のため、JNTOやICCAによる統計データ等の整備・収集を図り、市民や事業者の皆様が活用できるよう情報を発信します。
- (2) 京都市の観光行政を担う、観光MICE推進室の体制強化・充実を図ります。
- (3) 公益財団法人京都文化交流コンベンションビューローなど関係団体の機能強化を図り連携を強化します。

京都市観光振興審議会 委員名簿（敬称略・役職は審議会当時のもの）

役職	氏名	役職等
顧問	石森 秀三	北海道開拓記念館 館長 元北海道大学観光学高等研究センター長
会長	橋爪 紳也	大阪府立大学観光産業戦略研究所 所長
副会長	田中 誠二	学校法人大和学園 理事長
副会長	本保 芳明	首都大学東京 都市環境学研究所 教授 観光庁 参与
委員	朝原 宣治	北京五輪 銅メダリスト（陸上男子 400m リレー）
委員	大久保 仁	近畿運輸局長（第 1 回審議会）
委員	太田 恵美	コピーライター
委員	北原 茂樹	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長 日本旅館協会京都府支部 副支部長
委員	藏原 潮	西日本旅客鉄道株式会社 執行役員京都支社長
委員	ゲライント・ホルト	THE J TEAM 株式会社 代表取締役 観光庁ユニークベニュー利用促進協議会委員
委員	佐竹 力総	全国料理業生活衛生同業組合連合会 会長
委員	佐藤 善信	観光庁 次長（第 1 回審議会）
委員	沢登 次彦	リクルートじゃらんリサーチセンター センター長 観光庁観光産業政策検討会委員
委員	清水 裕美子	市民公募
委員	杉本 健次	株式会社 J T B 西日本 取締役 京都支店長
委員	住田 弘之	新関西国際空港 執行役員
委員	瀧本 美穂	市民公募
委員	土屋 知省	近畿運輸局長（第 2 回審議会～）
委員	長澤 香静	京都仏教会 事務局長
委員	中嶋 茂博	京都府神社庁 参事
委員	西村 明美	柊家旅館 女将
委員	野村 憲司	京都物産出品協会 会長
委員	濱崎 加奈子	有斐斎 弘道館 館長
委員	平岩 孝一郎	日本ホテル協会京都支部 支部長
委員	藤井 聡	京都大学大学院工学研究科 教授
委員	真箏	元芸妓 ジャズシンガー
委員	矢ヶ崎 紀子	東洋大学 国際地域学部 国際観光学科 准教授 国土交通省交通政策審議会委員
委員	八木 匡	同志社大学経済学部 教授
委員	矢野 麻子	株式会社ドラマティック 代表 元ルイ・ヴィトンストラテジック・カスタマー デベロップメント シニア・ディレクター
委員	山岡 景一郎	平安女学院 理事長・大学学長
委員	山口 裕視	観光庁 次長（第 2 回審議会～）
委員	若林 靖永	京都大学大学院経営管理研究部 教授



平成26年(2014年)10月

発行
京都市産業観光局観光 MICE 推進室

TEL.075-746-2255

京都市印刷物 第263124号